

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-137	15-049	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Relationship between alcohol consumption and cardiac structure and function in the elderly: the Atherosclerosis Risk In Communities Study. 高齢者における飲酒と心臓の構造および機能の関係 : ARIC 研究		
執筆者		
Gonçalves A, Jhund PS, Claggett B, Shah AM, Konety S, Butler K, Kitzman DW, Rosamond W, Fuchs FD, Solomon SD.		
掲載誌		
Circ Cardiovasc Imaging. 2015 Jun;8(6). pii: e002846. doi: 10.1161/CIRCIMAGING.114.002846.		
キーワード		PMID
高齢者、飲酒、心エコー、心不全、心筋症		26015266
要 旨		
背景： 過剰な飲酒は心筋症と関連するが、適度の飲酒による心臓の構造および機能への影響については大部分が未解明である。		
方法： Atherosclerosis Risk in Communities (ARIC)研究の5回目の調査より経胸壁心エコー検査を実施し、禁酒者（かつての飲酒者）および明らかな弁膜疾患を有する者は除外した 4,466名（76±5歳、男性 1,781名、女性 2,685名）を対象とした。聞き取り調査での自己申告による飲酒量に基づいて、対象者を非飲酒者、週あたり7ドリンク以下、7から14ドリンク、14ドリンク以上の4群に分けた（1ドリンク=エタノール 14g）。多重線形回帰モデルおよびロジスティックモデルを用いて、性別に飲酒量と心臓の構造や機能を表す測定値との関連を共変量を調整して解析した。		
結果： 男女とも飲酒量が多いほど拡張期および収縮期の左心室径が大きく、左心房径が大きい傾向が見られた（ $P<0.05$ ）。男性では飲酒量が多いほど左室容積が大きく（ $\beta=8.2\%；P=0.029$ ）、E/E'比が高い傾向を認めた（ $\beta=0.82\%；P=0.014$ ）。女性では飲酒量が多いほど左心室の駆出率が低く（ $\beta=-1.9\%；P=0.002$ ）、左心室の長軸方向グローバルストレインが不良な傾向が見られた（ $\beta=0.45\%；P=0.07$ ）。※飲酒量カテゴリーについての偏回帰係数を示す。		
結論： 地域居住の高齢者において、飲酒量の増加は心臓の構造および機能の軽度な変化と関連しており、女性は男性よりもアルコールの心毒性作用を受けやすいことが示唆された。		